

環境福祉経済委員会市内視察報告書

市内視察における調査結果について、下記のとおり報告します。

平成 29 年 10 月 20 日

光市議会議長 中 村 賢 道 様

光市環境福祉経済委員会

委員長 森戸 芳史

副委員長 萬谷 竹彦

委 員 磯部 登志恵（副議長）

委 員 大田 敏司

委 員 岸本 隆雄

委 員 木村 信秀

委 員 笹井 琢

委 員 土橋 啓義

委 員 西村 憲治

随 行 高木真由美（事務局）

記

- 1 研修年月日 平成 29 年 9 月 21 日（木）9 時 30 分～11 時 30 分
- 2 視 察 先 瀬戸風線、光駅北口、跨線橋、光駅南口周辺（防長バス停留所等）
- 3 調査結果等 別紙のとおり（資料含む）

環境福祉経済委員会市内視察調査結果

○瀬戸風線、光駅北口、跨線橋、光駅南口周辺

1 日時 平成 29 年 9 月 21 日（木） 9 時 30 分～11 時 30 分

2 調査事項

光駅周辺地区拠点整備基本構想策定に向けた現地確認

3 内容

人口減少や少子高齢化の進展を背景に、本市のまちづくりにおいては、持続可能な都市経営の観点などから、コンパクトなまちづくりによる拠点創出と公共交通による拠点間の網形成が重要となっている。

今後、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方でまちづくりを進めるうえで、本市の主要な交通結節機能を担い、かつ都市拠点地区の一つに位置付ける「光駅周辺地区」の重要性がより高まると見込まれる。

また、光駅周辺地区における施設の老朽化や交通体系の変化の見込みなど、光駅周辺を取り巻く環境も大きく変化している。

本市は、今年度より 2 年間かけて光駅周辺地区拠点整備基本構想を策定することとなっており、まずは、関連する瀬戸風線の進捗状況や光駅北口、駅にかかる老朽化した跨線橋、バス停が分散する南口周辺を視察した。



○瀬戸風線

平成 27 年 2 月に供用が開始された、県道光柳井線の虹ヶ丘二丁目から虹ヶ丘七丁目の市道交差点までの 1 期区間に引き続き、虹ヶ丘六丁目における改良工事をはじめ、橋梁の設計や地質調査など、国道 188 号に接続するまでの 2 期区間の工事が着実に進められている。



○光駅周辺

光駅は、1912年（明治45年）4月11日に開業。昭和16年に、虹ヶ浜駅から改称。平成27年の一日の平均乗車人員は、2,363人。

平成29年3月策定の第二次光市総合計画では、光・未来創生プロジェクトの特に重点的かつ戦略的に取り組むべき政策として、JR光駅の橋上化と交通ネットワーク強化プロジェクトが掲げられている。

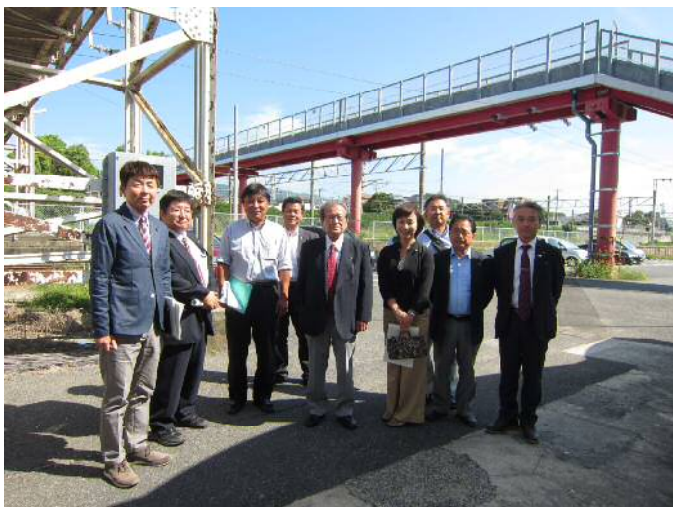
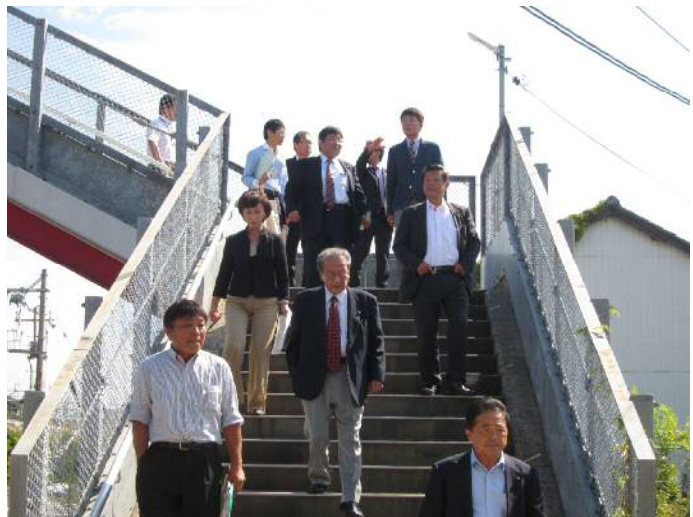
具体的取組みとして、鉄道事業者と一体になった駅橋上化や駅周辺施設等のバリアフリー化、駅周辺の交通結節機能の充実がある。



○光駅跨線橋

光駅跨線橋は、光駅の南口と北口を結ぶ通路として昭和 42 年に完成。

およそ 10 年ごとに、橋桁や橋脚の保守管理を行ってきたが、平成 27 年から 2 年、7,700 万円をかけて補修を行った。



<委員所感>

所 感 (森戸 芳史)

瀬戸風線については、着実に進んでいることが分かった。

跨線橋については耐用年数を過ぎ、早期に架け替えが求められる。JR 駅前広場に他社のバス乗り入れで乗客の利便性向上が必要。

また、駅構内でも IC カードの導入が必要。駐輪場も満杯で早急な対応が必要。全体的に光駅周辺についてはハード面での課題が多い。

少子高齢化や時代に対応し、抜本的な対応が求められる。

所 感 (萬谷 竹彦)

光市が都市拠点施設を形成するにあたって、避けては通れない施設の一つ、JR 光駅の視察を行いました。

現在、具体的な取り組みとして、駅の橋上化、駅のバリアフリー化、駅周辺の交通結節機能の充実を掲げています。

駅の北口においては、市有地も限りがあり、様々な開発を工夫して行わなければならないと感じました。2年後には新病院もでき、大きく交通形態も変わると思われますので、早急な取り組みが必要だと思います。

南口に関しましても、駅前ロータリーも、市有地、JR の土地が混在しており、一筋縄ではいかない状況がよくわかりました。

跨線橋も、50年の歳月を経ていて老朽化も否定できません。

様々な事項を考慮して、そして、大きな夢をもって、この光駅周辺地区拠点整備を考えていく必要があると感じました。

光市の顔として、恥ずかしくない計画を…と、考えています。

所 感 (磯部 登志恵)

光駅周辺地区拠点整備の基本構想策定に向け、現状の光駅周辺を視察したが、やはり現場を再確認することの意義を痛感した。

まずは、北口から広がる開発された虹ヶ丘団地の様子を見たが、非常にロケーションもよく、今後の展開が楽しみなエリアであると感じた。

北口の駐車場・駐輪場エリアもかなり広く、瀬戸風線開通を見据えた整備は重要だ。

北口から南口エリアに通ずる跨線橋を歩き、南口の周辺を見たが、早期のバリアフリー化、さらには、虹ヶ浜海岸に通じる景色を光市の「売り」にすべきという思いが高まった。

今後は、光市への訪問者や居住者が心地よく感じてもらえることが大切と考えているので、現状の課題、特に雑草が繁茂しているエリアやゴミが散乱している状況等、環境美化を解決しながら、県内県外の工夫された駅周辺などを確認していきたい。

所 感 (大田 敏司)

この度、環境福祉経済委員会は、議会基本条例により、年間テーマを「光駅前周辺地区拠点整備基本構想の策定に向けて」の調査及び検討・対策としました。

この、9月21日環境福祉経済委員会協議会が開催され、執行部より、概要説明を受けた後に、市内現地視察しました。

光駅の北側より、「虹ヶ丘跨線橋」を渡り光駅正面の南側出て、現状を確認しました。

「光駅前周辺地区拠点整備基本構想の策定に向けて」の中にある、光駅の橋上化計画は駅の幅が100m近くあり、北側と南側をいかにして一本化していく事が大変な課題だと思いました。

また、光駅の北側をどのように整備をされ、南側の虹ヶ浜までの区間を、どのようにされるのか、まだ計画は示されませんでした。

この計画は、始まったばかりで、これから「光駅前周辺地区拠点整備基本構想検討会議」で、2年かけて議論をされるそうでありますので、見守っていきたいと思います。

議会の中でも議論をしていかなければと思っております。

所 感 (岸本 隆雄)

念願だった、瀬戸風線がようやく開通に向けて動き出したことは、喜ばしいことです。

計画に遅れが出ないように見守って参ります。

光駅北口について、元シルバー人材センター事務所跡地・駐輪場・駐車場をどのように活用していくか？ 私は、できるだけ多く駐車できるスペースを作り、無人化して料金所を設け収入があがるようにします。

駅南口について、民間の活力で駅表玄関が綺麗に垢ぬけるように、働きかけていきたい。優遇制度を設けることが、必要だと思います。

駅については、県内、県外の視察で考えをまとめていきたい。

2年間、検討委員会の協議内容を見守りながら、光市の玄関口が見間違えるように変わり、市民にとって利用しやすい駅に生まれ変わるように、勉強していききたいと思います。

所 感 (木村 信秀)

通称、瀬戸風線の進捗状況の現地確認をするとともに、土地開発公社において虹ヶ丘団地の埋め立てによる宅地分譲の様子を確認することが出来、今後の課題が見え非常に参考となった。

また、JR光駅北口周辺の状況を徒歩での確認をした。

今後、新病院開院を2年後に控え、駅北口として交通網の結節的な役割とともに、住環境の安定と経済的効果が生まれる要素があるのかについて、まちづくりの観点から検証していきたいと感じた。

さらに、跨線橋を渡り駅南側の確認し、改めて駅橋上化の必要性を感じると

共に平成32年度までに国の示す「移動等円滑化の促進に関する基本方針」の趣旨に沿って早急にバリアフリー化に取り組まなければならない。

また、駅周辺地区拠点整備の基本構想の策定を2年掛けて作り上げることの重要性は理解するものの、改めて再開発を急がなくてはとの思いを強くした。

今後のまちづくりの起点整備とともに、中心づくりを考えなくては光市の発展はないように思える。

所 感 (笹井 琢)

JR光駅の橋上化・バリアフリー化にあたっては、JRと協議する前の段階で、光市としてのコンセプトを明確化することが必要です。以下私案を示します。

- ①橋上通路については、24時間通行可能な市管理通路とし、自転車通行のできる長大スロープを設ける。
- ②ホームは1島2面に集約し、嵩上げするとともにエレベータ1台設置する。
- ③既存駅舎の撤去をJR側で行ってもらい用地は購入、交通広場を拡充し防長バス停と一般車送迎エリアを設ける。
- ④JRとの協議に当たっては、他県他市駅の負担割合データを数多く集め分析して交渉に臨む。

瀬戸風線については、早期の開通を望みます。

所 感 (土橋 啓義)

光駅北口から、虹ヶ丘団地の土地区画整理事業の整備状況や瀬戸風線の進捗状況を視察したが、車窓から海が見え、景色のいい立地であり、新病院の建設中である、北口の周辺整備の必要性を確認した。

建設部では、光駅周辺地区拠点整備基本構想を来年度までに策定し、再来年度より、段階的に事業を進めていくとのことであるが、20～30年はかかる壮大な事業であると感じた。

また、昭和42年に建設された跨線橋は、50年が経過しており、架け替えを前提に検討しているようであるが、事業を推進するにあたっては、橋の利用者数を明確にしてもらうこと、また、駅の整備にあたっては、他市の事例を踏まえ、光市の適切な費用負担を研究する必要があると考える。

今後、将来像を含め、実際に電車を利用する人たちが30年後にはどのくらいになるのか、また、費用対効果がどうなるのかといった参考資料を求めていくとともに、所管課が、市民の皆さんと協議していく中で、我々に対し、適切な時期に、本構想の説明会を開催して欲しい。

所 感 (西村 憲治)

久しぶりに駅北側に降り立ち、駐車場(81台)・駐輪場・旧シルバー人材センター跡地ずいぶん広いと感じました。(参考までに南側の駐車場は198台)

「百聞は一見に如かず」新たな発見も現地でございましたが、JRの敷地内

は、相変わらず草ぼうぼうで、これが「光の顔」なのか！とがっかりも致しました。

トイレは壊され、売店は 2/28 から廃止閉店、人口減少を象徴するまちの玄関で、この場所からは、明るい光市の未来はみじんも感じられませんでした。

本年、駅橋上化基本構想に予算が付き、2年後には実施計画の運びとなります。

市立病院移転後の援護射撃となるよう駅北側の活用が望まれ、すぐそこに明るい光が見える思いです。

しばらくの間、市民会議の成り行きを見守りたいと存じます。